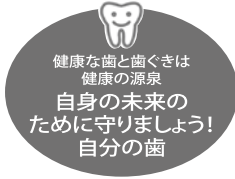




80歳で20本。自分の歯でおいしく食べよう。 w-yuzodent.com



歯科医師 渡辺 雄三
新潟大学歯学部予防歯科卒業後、新潟県の無歯科医村へき地事業に11年間携わる。歯周病治療を中心として口腔の改善に努める。2005年5月、故郷・会津若松市石堂町に開業。1958年生まれ、山歩きが趣味。

定期健診を受ける目安



乳幼児

2~3カ月に一度

乳歯が生えたらまずは、1度検診に。その後は2~3カ月おきにムシ歯がないか、生え方に異常がないかをみてもらおう。



子ども

3~6カ月に一度

ムシ歯になりやすい子は3カ月に1度、きちんと歯みがきができていない子でも6カ月に1度は検診へ。



おとな

半年~1年に一度

ムシ歯だけでなく、歯周病も気になる時期。忙しくても面倒くさがらずに半年~1年に1度は検診に行こう。



高齢者

半年~1年に一度

義歯を使っている人は、調整のため半年~1年に1度は検診に。歯の老化も始まっているので、定期的に通おう。

食べやすい大きさにするために自分の口の中で噛み切つてから赤ちゃんにあげたりしませんでしたか? 赤ちゃんの手が食べもので汚れたとき、舐めてきれいにしてあげたことはありませんか? 何気なくしていたことから、赤ちゃんに虫歯菌をうつしていたというわけです。お母さんだけではありません。お父さんやおばあちゃん、家族のほかに保育者などの大人の口から感染して、子どもの歯に虫歯菌が棲みつくようになるのです。恋人同志でも同じことがいえます。虫歯のみならず歯周病も同様です。定期的な歯科へ行くことは、生涯の健康寿命を延ばすことになるというデータも昨今出ています。丈夫な口でいることは自立的な生活をおくる要です。

歯は体のほかの器官と違って、一度ある程度のムシ歯や歯周病にかかるとしてしまうと、自然治癒するということはありません。ましてや、削つたり抜いたりした歯は二度ともどに戻らないもの。予防は、家での歯みがきや食生活に気をつけるとともに、ムシ歯や歯周病の初期は、自覚症状が少なく、自分ではわ

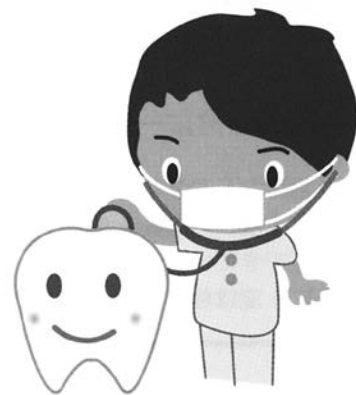
失った歯は、二度ともどに戻らない だからこそ 予防に力を入れて

虫歯は感染症

ウイルスや細菌、寄生虫などの微生物が体内に侵入して、臓器や組織の中で増殖することを「感染」といい、その結果生じる病気を感染症といいます。SARSやエイズなどのよ

うに人から人へ伝染する病気のことを伝染性感染症、膀胱炎や破傷風などのように伝染しないものを非伝染性感染症といいます。虫歯は、「だえき」を介して伝染する感染症なのです。赤ちゃんの口の中には虫歯菌はいません。赤ちゃんには歯がないから当たり前だと思っても、虫歯の原因となるミュータンスレンサ球菌が本当にまったくいませぬ。1994年にスウェーデンで、お母さんの歯をきれいにすることによって、赤ちゃんの虫歯菌の感染を減らすという試みが行われ、その結果お母さんの歯をきれいにすることで、赤ちゃんの歯を虫歯から守ることができました。このことから、お母さんが感染源であったと考えられるのです。赤ちゃんが離乳食を食べ始めた時期に、自分の唇にスプーンをあてて食べものの温度を調べたりしませんでしたか?

治療から 予防へ!



治療から予防へ!
虫歯は感染症
—丈夫な口でいる—

かむ力

